佐野にもあった「東照宮」

1616年に死去した徳川家康の遺体はまず久能山に埋葬された後、一周忌をもって日光に移されましたが、その背景には当時の密教の影響があるといわれています。

日光は久能山と富士山を結んだ線の延長上にあり、家康の魂は久能山から日光へ、富士山を通って運ばれた、というわけです。ここで言う富士山は「ふじのやま」であり、それは「不死の山」に通じます。すなわち、家康の魂は日光へ運ばれることによって「不死の存在＝永遠に生きる神」となって日光に祀られたのです。

また、江戸と日光を結ぶ線が北から約６度傾いており、これは江戸から北極星を眺めた方向です。「北極星が宇宙の中心で、すべての星は北極星を中心に回っている」というのが妙見信仰と呼ばれる密教の考え方。宇宙の中心である天帝が北極星であり、その北極星の周りを回る北斗七星を天帝の乗り物としたのです。そして、北極星に向かう道が「北辰の道」で、神仏だけが通れる道です。ここを、神となった家康が通るのです。

久能山に埋葬された家康は、久能山から富士山を経て永遠の存在（＝神）となって日光東照宮に「東照大権現」として祀られ、東照大権現となった家康の魂は、神だけが通行できる「北辰の道」を通って江戸に戻り、江戸を鎮護する。このような考えに基づいて日光に安置されたのです。

家康の遺骸は久能山から日光へ遷座され、そのルートにはのちに東照宮が勧請（かんじょう）された。

参考資料：
高藤晴俊
「家康公と全国の東照宮」

田中正造

天保12（1841）年11月３日、佐野市小中町（旧旗川村）生まれ。明治23年、衆議院議員に当選、足尾銅山の鉱毒問題を繰り返し国会で取り上げ、被害民を救うために努力。明治34年には死刑覚悟で天皇に直訴、大正2（1913）年、71歳で世を去った。

坂本龍一さんも感銘、正造の「エコな認識」

「真の文明は　山を荒らさず　川を荒らさず　村を破らず　人を殺さざるべし」

おすすめルート

1 田中正造墓所（惣宗寺境内）

佐野市金井上町2233
TEL 0283-22-5229

田中正造分骨地の一つ。墓石は正造が愛した自然石で、渡良瀬川流域産のものを使い、足尾を向いています。直訴の報を伝え聞いて感銘を受けた石川啄木の歌碑もあります。

2 佐野市郷土博物館

佐野市大橋町2047
TEL 0283-22-5111

展示室には、直訴状をはじめ遺品など、正造翁関係の資料が展示されています。

3 田中正造旧宅

佐野市小中町975
TEL 0283-24-5130

正造の生家は、南側の県道に面して表門、右側に２階建ての隠居所があり、奥に母屋と土蔵があります。隠居所は公民館として使用された時期もありました。

4 田中正造誕生地墓所

佐野市小中町963-1

正造分骨地の一つで、勝子夫人と共に供養されています。

墓石の題字は友人・島田三郎のもの。正造の蓑笠姿は小中出身の歴史画家・小堀鞆音によるものです。

5 浄蓮寺（田中家累代の墓所）

佐野市小中町998
TEL 0283-24-2843

田中家累代のお墓があります。正造の師・赤尾小四郎家のお墓もあります。

地元栃建協会員が選ぶ 佐野・足利 裏スポット巡り

あなたはいくつ探せますか？

日本で唯一
「**美人証明**」を出す神社

美人弁天

足利市本城２丁目1805
TEL 0284-41-1382
（美人弁天事務局）

足利は昔から織物の町で、美人の多い町といわれていました。「足利の町を訪ねれば、いにしえ忍ぶ東の京都」と言われ、西条八十作詞の「足利音頭」の中には、「足利来るなら織姫様の…、嫁に持つなら、足利むすめ、肌はやんわり…」と歌われています。美人弁天は別名「なで弁天」とも呼ばれています。美人弁天をなでることにより、「健康・長命・美」のご利益が得られると言われています。訪れると「美人証明」がいただけます。

鎌倉時代の面影を
今に伝える

国宝 鑁阿寺

足利市家富町2220
TEL 0284-41-2627

平成25年８月７日、本堂が国宝に指定されました。鑁阿寺は、もともとは足利氏の館であり、現在でも四方に堀と土塁が廻っています。東西南北の橋を渡らないと入れません。

南の太鼓橋を渡って、大きな楼門をくぐり、正面の本堂へと続きます。境内は四季折々の草木があふれ、数多くの文化財が点在しており、節分の夜には鎧行列もあります。

悪縁を**切り**、良縁を**結ぶ**

織姫神社

足利市西宮町3889
TEL 0284-22-0313

門田稲荷神社

足利市八幡町387
TEL 0284-71-0292

◀織姫神社

▶門田稲荷神社

足利織姫神社は1300年の歴史を持ち、今では産業と縁結びの神様として広く市民に親しまれています。縁結びの神様「はたがみ織姫」こと「ひめちゃん」に一年の元気や、幸せとの縁結びをお願いしましょう。一方、1056年に源義家が戦勝祈願のために創建したと伝わる下野国一社八幡宮の敷地内にある門田稲荷神社は、日本三大縁切り稲荷で知られています。縁切りの神様「門田みたま」こと「たまちゃん」は災難や病気との縁を切ってくれます。

? どこにあるのか日光東照宮御神体

謎シリーズ Vol.3

北は北海道から南は九州まで日本全国に、「東照宮」と名の付く神社や徳川家康公を御神体とする神社（全国東照宮連合会加盟神社）が48社あります。中でも特別なのは日光東照宮であることは異論ないと思いますが、何と驚くなかれ、その日光東照宮の東照大権現御神体は空っぽ、という説があります。じゃあ、どうしたんだ。どこにあるんだ。ということで、今回はその謎に迫ります。

実は、前述の全国東照宮連合会加盟神社48社以外に、もう一つ「東照宮」と名の付く小さな神社がこの栃木県内、しかも、日光市内にあるのです。それが栗山地区野門にある栗山東照宮です。ここの御神体が本物、正真正銘の日光東照宮にあったはずの東照大権現御神体であるといわれています。ではなぜここにあるのか？

慶応４年すなわち明治元年、干支で言えば戊辰の年、戊辰戦争宇都宮城攻防戦に勝利した新政府軍の次なる戦の舞台は日光だ。かたや、逃げ延びた旧幕府軍は徳川幕府の大聖地・日光山に立てこもり、新政府軍を迎え撃つ準備をした。戦ともなれば日光山は火の海と化すのは間違いなし。日光山の僧侶たちは命を賭けて両軍の説得に当たり、日光山を戦火から守ろうとした。日光山での戦の阻止に動いていたのだ。結果、新政府軍の板垣退助、旧幕府軍は大鳥圭介が説得に応じ、辛うじて日光山での戦は阻止されたのだが、一方では、日光山が万が一の火の海になった場合でも、何としても東照大権現の御神体だけは守らねばと、御神体を別の場所に移す計画が立てられていた。すぐさま屈強な若者が集められ、その若者によって御神体を会津若松の鶴ヶ城へ移すことを実行するにいたった。闇夜に乗じて、若者一行は御神体を背負い、日光東照宮を出発。現在の野州原林道を抜け小真名子山を登り、富士見峠から栗山野門へと下って行ったが、会津はまだまだ遠かった。しかしその時、事態を嗅ぎつけた新政府軍の追っ手に追いつかれ、若者たちは無残にも皆殺しにあってしまった。追っ手は必死になって御神体を探したが見つからなかったとか。一部始終を目撃していた野門集落の人々は若者を丁寧に弔い、と同時に御神体はそれ以降、昭和に至るまで栗山野門の片隅で人知れず密かに守られ、暫くの眠りにつくこととなった。

昭和45年、当時の栗山村野門に小さな社殿が有志によって建立されました。栗山東照宮と命名され、何とその御神体、これこそが戊辰戦争当時に日光東照宮から運び出された東照大権現御神体なのです、という説があります。ですから、日光東照宮には東照大権現御神体はありませんということになります。

▲栗山東照宮社殿

【位置関係図】

もちろん、反論・反証もたくさんあることを付け加えます。さて、この謎には諸説ありますが、定かではありません。ここが謎の面白さです。

◀県道から野門への入口

▶栗山東照宮社殿入口鳥居

「栃建協（とちけんきょう）」：一般社団法人栃木県建設業協会の略称。各地域に根付いている建設業者が情報をお届けしています。